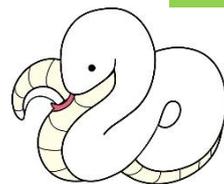




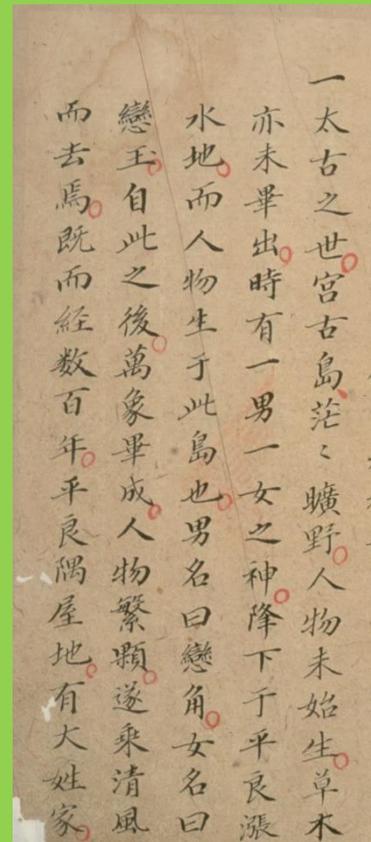
**第1回：巳 宮古島の漲水御嶽の伝説**



キーワード：蛇 漲水御嶽 三輪山伝説 遺老説伝 琉球国由来記

ハイサイ！キジムン ヤイビーン！（こんにちは。きじむんだよ）このコラムも6年目。今年度は、十二支と琉球・沖縄をテーマに楽しいお話を毎月お届けします。

4月は、十二支でいうと6番目の巳(み)にあたります。沖縄で有名な蛇の話のひとつに宮古島の漲水御嶽(はりみずうたき)の由来があります。1745年に首里王府が編纂した説話の本『遺老説伝(いろうせつでん)』（琉球大学附属図書館 伊波普猷文庫）の貴重書より、その伝説を紹介します。



伊波普猷文庫No.13(2)『遺老説伝』  
巻2、3ページ(部分)

昔、宮古島に男神恋角(こいつの)と女神恋玉(こいたま)が天から降り立ち、それから万物が生まれました。数百年後、平良(ひらら)の隅屋(すみや)に大姓家という家がありました。神に祈ってやっと授かった美しい娘を大切にしていたのですが、娘が15歳の時、夜に見知らぬ美しい少年が部屋に来て娘は気を失ない、気が付けば身ごもっていました。娘は嘆き悲しみました。両親は驚いて、「次にその少年がやってきたら、長い糸を通した針を髪にひっかけなさい」と教えたので、娘はその通りにしました。

翌朝、その糸をたどっていくと漲水御嶽の洞窟で、そこには大きな蛇がいて、頭に針が刺さっていました。その夜、娘の夢にその大蛇が出てきて「我は恋角の化身である、お前は3人の娘を生むだろう。子供達が3歳になったら漲水御嶽へ連れてきなさい」と言いました。

いわれた通りに子供達を連れて行くと、大蛇が現れました。娘は驚いて子供達を投げ捨てましたが、子供達は喜んで蛇に抱き着きました。そして蛇は子供達と共に御嶽の中へ消え去って、子供達は守護神となりました。

この説話は、日本で有名な三輪山(みわやま)伝説と類似しています。

沖縄の伝説の広域的なつながりが感じられます。



宮古島 漲水御嶽 (筆者撮影)

沖縄には、ほかにもへびに関する伝説があります。嘉手納の屋良ムルチ(池)の人食い大蛇の話や、人間が不老不死になれなかった理由であるセッカ(小鳥)とハブの話など。蛇に関する伝説、皆様も探してみてください。(AS)

[参考文献]

- 外間守善・波照間永吉編『定本琉球国由来記』角川書店、1997年
- 嘉手納宗徳編『遺老説伝』角川書店、1978年
- 仲井真元楷『沖縄民話集』社会思想社、1974年



デジタルアーカイブQRコード